

「生きる喜び」を目的とするデンマーク幼児教育に関する研究

目的

本研究では、デンマークの教育において、「生きる喜び」の教育が、いかに実践されているかを明らかにするために、以下の検討を行った：

- (1) デンマークの教育の基礎を築いたニコライ・F・グルントヴィ (Grundtvig, N.F.S. 1783-1872) の資料を探り、文献的検討を行う、
- (2) デンマークの幼児教育、初等教育の現場で指揮を執る現職の校長を招いて研究会を行う、
- (3) 実際に、デンマークの幼児教育・初等教育の現場に実際に参加し、エスノグラフィの手法を通して、文献を通しては明らかに出来ない「生きる喜び」の醸成とは何か、その手がかりを得ることを目的とした。

実施内容

1. グルントヴィに関する文献的検討

東海大学松前記念館を訪問し、難波克彰同大学名誉教授の指導により、本研究に関連する資料を得た。

2. デンマークの幼児教育・初等教育の現場の校長を招いて研究会を実施した。

2. 幼児教育、初等教育の現場への参加

2015年3月、本学科3年生13名と共に、グラムスペア保育園、グスタミネ農場保育園、アレロッド森の保育園、グラムスペア・フリースコーレで観察実習・参加実習を実施した。

結果及び考察

1. 文献的検討

さまざまな資料を通して、18世紀後半、フランス革命の余波を受けて、デンマークでも長く続いた農奴制が廃止され、一夜にして解放された農民のアイデンティティの形成、そのための教育が必要となったことが明らかとなった。そこに登場したのが、グルントヴィ

である。彼がとった手法は、トップダウン的なやり方ではなく、元農奴たちと、「あなたたちはどうしたい」、「どうなりたい」、「何をやりたいのか」という話し合いを何度も重ね、多くの時間を費やし、現代のデンマークの教育の基礎を築いたことが明らかとなった。

2. 現職の校長を招いての研究会

2014年9月25日、グラムスペア・フリースコーレ・エフトスコーレの校長を招いて、研究会を行った。この校長の学校は、グルントヴィ主義の学校であることから、文字通り、グルントヴィが行った手法、すなわち、子どもたちの肯定的なアイデンティティを形成すること、何のために学ぶのか、自ら考える教育を徹底することなどが明らかとなった。

3. 観察実習・参加実習

紙面の都合上、全ての観察実習・参加実習の結果について記載することはできないが、例えば、森の幼稚園では、決して放任ではなく、それぞれの発達段階に合わせた課題を十分に考慮した上で、できるだけ自由な環境を子どもたちに提供していることが明らかになった。これらの環境で保育を受けた子どもたちは、学童期、高い集中力を発揮し、運動能力だけでなく学業成績も高いことが報告されていた。

